

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 101-0047

所在地 千代田区内神田2-7-4 三井ビル3階

評価機関名 株式会社 評価基準研究所

認証評価機関番号 機構 12 - 218
電話番号 03-3251-4150
代表者氏名 代表取締役 谷口仁宏 印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	松尾 肇浩	経営	H1501027
	②	衛藤 美樹子	福祉	H2201042
	③	谷口 仁宏	福祉、経営	H0305043
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	株式会社 アイ・エス・シー ウィズブック保育園武蔵小山			
事業所連絡先	〒	142-0062		
	所在地	東京都品川区小山4-4-7 BPRプレイス武蔵小山1・2階		
	TEL	03-6426-8763		
事業所代表者氏名	園長 田村 真美			
契約日	2024 年 7 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 11 月 6 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 11 月 20 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 11 月 6 日			
自己評価結果報告日	2024 年 11 月 20 日			
訪問調査日	2025 年 1 月 22 日			
評価合議日	2025 年 1 月 22 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査・職員調査は、WEBでの調査を実施し、携帯電話・スマートフォン・パソコンによる回答を中心とし、紙ベース希望者には従来型の紙による回答も可能とした。利用者調査開始時には、調査の趣旨や手法などに関する詳細な説明と個別のID・パスワードを記した案内状を封緘封筒に入れて全家庭に配布し、職員向けにも同様の案内状を配布した。経営層には各標準項目の自己評価を的確に行うための独自資料を提供するなど、事業所向けの配慮も行っている。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
● 機構が定める部分を公表することに同意します。
○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 3 月 25 日

事業者代表者氏名 ウィズブック保育園武蔵小山 園長 田村 真美 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)「子育てに関わる保護者や人の成長」と「豊かな心と言葉を持つ子どもたちの育成」を実現し人を大切に作る社会を目指します。 2)すべての子どもには、無限の可能性あります。私たちは、それを引き出し「その子らしさと自ら伸びるチカラ」を育みます。 3)「子育てに頑張る保護者様や家族の育ち合い」に、寄り添い支援する存在であり続けます。 4)子どもたちの「好き・したい」をみつけて「自分らしさと自ら伸びる力を育む」ウィズブックプログラム。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 幼児期に何よりも大切なのは、成長の基盤となるらしさの”根っこ”を育むこと。 私たちはそれを『心の安定』『快動』『自律』の3要素で捉えています。 またこの3要素を整え、自ら伸びるチカラを育むには 『感じる（感性）』『考える（理性）』『表現する（創造性）』というプロセスを、 たくさん経験すること。 これをウィズブックを通して行っていきます。 又、ウィズブックで心掛けているのは、結果重視の一斉保育ではなく、子どもたちの探求・成長の兆しに寄り添うことです。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 子どもたちに胸をはれる自分になる 1. 根っこを整える … [根っこ]心の安定、快動、自律 2. 未来志向で「感じ、考え、表現する」 3. お互いに心地よい関係を築く

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯50世帯(園児数57名)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査項目は共通評価項目に準拠した。回答は、弊社オリジナルのWEBベース方式(パソコン・携帯・スマホ)で行った。WEBで回答できない保護者には書面の回答用紙を配布する。回答用紙は園経由で弊社宛に郵送してもらい、集計に加えることとする。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

57

50

50

50

100.0

利用者調査全体のコメント

総合的な感想では、園に対する満足度は「大変満足」が72.0%、「満足」が28.0%の合計100%であり、保護者から園への信頼は、非常に高い数値となっている。設問別では、「子どもの心身の発達」「園での活動が子どもの興味や関心を持って行える」「提供される食事」「自然や社会と関わる機会の確保」「保護者へ行事日程の配慮」「職員との信頼関係」「園内の清潔さ」「職員の言葉遣いや態度」「けがや体調不良時の対応」「子どもの気持ちを大切にされた職員対応」「プライバシーへの配慮」「保育内容の説明」で、90%以上の利用者が満足であると答えている。また、「保育の時間への柔軟な対応」「安全対策」「不満や要望への職員の対応」で80%の利用者が満足であると答えている。それ以外のすべての項目でも高い満足度であり、今後は今回保護者から出された個別意見の対応可能な事柄へのさらなる配慮や説明を充実させていただくことに期待したい。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	50	0	0	0
「はい」が100%という結果だった。自由意見では、「よく話すようになり、良いこと悪いことを覚えてきたり、歌を覚えてくれたり、保育園での生活が子供の発達に大いに役立っています」「貸してを覚えて友達と関わったり、トイレを覚えたり、自宅で教えてないことをたくさん覚えて帰ってきてくれます!」「園から帰ると新しい言動が増えており、園での先生やお友達ととても良好な関係が築けていると感じます」などがあった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	49	1	0	0
「はい」が98.0%、「どちらともいえない」が2.0%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ0%という結果だった。自由意見では、「食育活動や英語の時間、季節のイベントなど、日常の他に特別な時間も過ごせていて、子供はとても楽しそうです」「お絵描きや塗り絵をよく持ち帰り袋に入れてくれて様子がよくわかりありがたいです」「食育や苗を育てる活動、制作や様々な行事など、興味関心を持てるプログラムになっていると思います」などがあった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	48	2	0	0
「はい」が96.0%、「どちらともいえない」が4.0%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ0%という結果だった。自由意見では、「美味しくいただけている様です。」「保育のご飯、美味しかったや、」「お腹いっぱいにならなかった」等、もっと食べたかった様子を話します」「行事ごとにかわいいお給食になっていて微笑ましいです」などがあった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	46	2	2	0
「はい」が92.0%、「どちらともいえない」「いいえ」がそれぞれ4.0%、「非該当・無回答」が0%という結果だった。自由意見では、「公園遊びをしたり商店街を歩いたりして自然と社会と触れ合う機会が多くあると感じます」「ダンゴムシやありなど虫に興味を持つようになりました！」「園庭がない分、たくさんお外でお散歩や外遊びをしてくれていて、色々な自然の物と触れ合っているので満足しています」などがあった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	43	4	1	2
「はい」が86.0%、「どちらともいえない」が8.0%、「いいえ」が2.0%、「非該当・無回答」が4.0%、という結果だった。自由意見では、「多少の時間の変更などに対して、柔軟に対応して頂いております。大変ありがたいです」「非常に助かっております。またお着替えや布団など持ち帰るものも事前に準備してくださっていて助かります」「まだそのような機会はありませんがいつも親身に対応いただけるのでしていただけたと思います」などがあった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	42	7	1	0
「はい」が84.0%、「どちらともいえない」が14.0%、「いいえ」が2.0%、「非該当・無回答」が0%という結果だった。自由意見では、「子供の不注意で小さな怪我をした際も事前に電話でお伝えいただくなどとても親身に対応してくださっています」「度々怪我の連絡を受けるが、逆に些細な怪我ですんでいるため安全対策に大きな問題はないと感じる」などがあった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	46	3	1	0
「はい」が92.0%、「どちらともいえない」が6.0%、「いいえ」が2.0%、「非該当・無回答」が0%という結果だった。自由意見では、「事前に相談してくださるなどとてもありがたいです」などがあった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	46	4	0	0
「はい」が92.0%、「どちらともいえない」が8.0%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ0%という結果だった。自由意見では、「コドモンに書いた内容に対して親身になって答えてくれたり、時には園長先生も同席の元、こちらの相談によく対応してくださり、とても感謝しています」「いつも親身に対応いただいています」「何かあれば何でも相談できるお気遣いをいただいています」などがあった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	48	1	1	0
「はい」が96.0%、「どちらともいえない」「いいえ」がそれぞれ2.0%、「非該当・無回答」が0%という結果だった。自由意見では、「汚れているなどの印象をもったことはありません」などがあった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	49	1	0	0
「はい」が98.0%、「どちらともいえない」が2.0%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ0%という結果だった。自由意見では、「武蔵小山園の職員は信頼おける方々で、本当に良かったと思う。ここに通わせて良かったと思ってます」「とても優しいと思います」などがあった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	46	4	0	0
「はい」が92.0%、「どちらともいえない」が8.0%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ0%という結果だった。自由意見では、「十分すぎるほど丁寧なご対応をしてくださっており、とても安心しています」「以前こけて目をぶつけてしまった際、わざわざ電話で詳細を報告してくれて、またしっかりと冷やしてくれたためあざもひどくなく安心できました！」などがあった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	32	12	1	5
「はい」が64.0%、「どちらともいえない」が24.0%、「いいえ」が2.0%、「非該当・無回答」が10.0%という結果だった。自由意見では、「まだこのような経験はありませんが信頼できると思います」「お友達に嫌なことを言われた、と報告してくるときは一緒に「すぐ先生がダメだよって怒ってくれた」と言っているの、よく見てくださっているなと感じています」などがあった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	49	1	0	0
「はい」が98.0%、「どちらともいえない」が2.0%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ0%という結果だった。自由意見では、「担任の先生は息子の気持ちを大切にしてくれてる。若くても人として信頼のおける方で 来年も担任を望みます」「個性を理解して尊重してくれているのを感じます」「色々目配りしていただき感謝します」などがあった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	45	3	0	2
「はい」が90.0%、「どちらともいえない」が6.0%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が4.0%という結果だった。自由意見については特記事項はなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	47	2	1	0
「はい」が94.0%、「どちらともいえない」が4.0%、「いいえ」が2.0%、「非該当・無回答」が0%という結果だった。自由意見では、「色々説明していただいています」などがあった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	43	5	0	2
「はい」が86.0%、「どちらともいえない」が10.0%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が4.0%という結果だった。自由意見では、「小さな要望しかお伝えしたことがありませんがすぐ対応いただけています」「相談できる関係だと思ってますので話し合いをし検討していただいています」などがあった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	27	11	6	6
「はい」が54.0%、「どちらともいえない」が22.0%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ12.0%という結果だった。自由意見では、「相談した先生でなく、皆んなで対応してくださっているのを感じます」などがあった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
	カテゴリ1の講評	
	保育所保育指針と独自の保育手法を基に子ども主体の保育を目指している 保育の質を高めるうえで、指標となるものは何よりも重要なものとなる。保育所においては保育所保育指針を基本としながら子ども主体の保育に取り組む必要がある。園は保育所保育指針で明記されている3つの視点、5領域、また幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に照らし合わせながら日々の保育の指標としている。また園独自の絵本を中心とした手法は、子どもの根っこを育てることを目的として3つ力(快動、自立、心の安定)と7つの心(自発性、好奇心、探求心、自尊心、親切心、道徳観、価値観)を育むことを意識している。	
	園は子ども一人一人の個性を「らしさ」という表現を用いて共通言語として活用している 園は人を大切にする社会の実現を大きなビジョンとして掲げている。その中で園長はさまざまな会議において、園が目指す子ども像を「らしさ」という表現を持って共通の言語として引用している。具体的には職員会議、日々の報連相、1on1ミーティングなどの場面では「すばらしさとは？個性とは？らしさとは？」という意識を日々の保育の中でキーワードとして引用している。それにより目指すことの実現のため、それぞれの役割や意識が明確化され、専門性を持った保育者として統一化された意識の標準化が図られている。	
	園は運営における課題を検証することで、健全かつ自主的な運営につなげている 健全な園の運営のためには、さまざまな事案に対する検証と改善策を講じることが必要である。園長はまず情報の共有が重要だと捉え、職員同士の連携を意識して取り組んでいる。例えば本社からの連絡事項、システムの変更などの伝達を確実に行うことに加え、系列園を含めた園長同士の「プロジェクトチーム」(マニュアルの改善、園児募集の有効な方法、従業員満足度など)を立ち上げ、自主的な運営を心掛けている。そのような取り組みの中で育まれる独自性は今後の園の運営において園の強みとなり、活かされることを期待する。	

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1 (2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6 / 6 評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している 評価 標準項目		
サブカテゴリ2 (2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5 / 5 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている 評価 標準項目		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		
カテゴリ2の講評 園の運営において必要な意見を傾聴、把握しながら望ましい体制を整えている 園の運営において、その取り組みの是非を問うために保護者等の意見を集計することは、運営の整合性を図る上では重要である。園では行事ごとに保護者アンケートを実施し、広く意見を求め、改善につなげている。さらに日常のコミュニケーションにおいても大切な意見が埋もれているとして、保育者と保護者間の日々の会話においても「保護者の思い」「子どもの思い」を抽出するよう努めている。さらに系列園があることを活かし、同様の取り組みや新たな取り組みの共有を図り、園としての利便性、専門性の意識を高く持っている。 保育者は目指す目標を明確に意識し、さらに保護者と共に子どもの成長を支え合っている 園長は職員が安心して業務に向き合い、保育を楽しむことを目的として、密なコミュニケーションを図りながら自己の役割の明確に意識できるように働きかけている。具体的に新入社の職員に対して子育てに関する専門的な学習の場を設けることで業務を明確にして、安心して入職できる環境を整えている。また保護者に対しても職員と同様に育児に関する研修を進めている。保育者と保護者が双方に学び合うことで、その後「さくせん会議」と称して、職員と保護者とが共通認識を深め、子どもの「らしさ」の追及が日々、行われている。 社会的に望まれる園の中長期計画を地域の特性に応じた方向性を示してほしい 園は予測できない時代の中で、年間の事業計画だけでなく、中期的かつ長期的な事業計画を立案している。事業所として目指すものは、地域の子育てに寄り添った活動である。計画では保育、マネジメント、保護者支援、地域支援などの項目に分け、具体的に示されている。社会的な意義や方針がある中で、現状の課題(地域の保護者や子どもの特性、保育目標や方針を踏まえた具体的な取り組みの想定)を反映すべき観点がよりあることが望まれる。現状把握から生まれる中期長期計画が、より地域の子どもたちと保護者に寄り添ったものとなると考える。		

3 経営における社会的責任			カテゴリー3
サブカテゴリー1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。		
サブカテゴリー2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
サブカテゴリー3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		

カテゴリー3の講評

園長は常に「子どもたちに胸を張れる自分であるか」という思いを職員に問いかけている

社会人として、また保育者としてどうあるべきか、どう振る舞うべきかという規範意識を根付かせることは容易なことではない。園長は日々の業務の中でのコミュニケーション、会議などの場を通じてこの思いを浸透させようと努力し続けている。その理由は何より子どもの大切な成長の基盤となる「らしさの根っこ」に影響を与えるのは保育者自身の人間性に他ならない。「子どもたちに胸を張れる自分であるか」という問いには常に自己研鑽を怠らず、成長を促す専門性につながるものである。そのような問いを行いながら、さらなる保育の質の向上に期待する。

保護者の苦情や子どもの虐待等について、外部機関との連携を図り組織的に対応している

保護者からのクレームや要望があった時にも速やかに対応する仕組みをつくっている。入園時に重要事項説明書に基づき説明している。その中で苦情受付担当や責任者、また第三者委員の公表実際に苦情があった際にも、再発防止策を含めて提示し、利用者の納得が得られるよう努めている。また児童虐待への取り組みについても、家庭の状況や児童に関する情報を速やかに共有することができるよう、家庭支援センターと連携する体制を整備している。また受取りの違いで生じた通報事例を受けた際は再度検証を行い、認識を統一し、再発防止の対策につなげている。

園は子育て支援を重点目標として捉え、地域のランドマーク的な存在を目指している

園は地域における子育て支援において、重要な役割を担うためさまざまな取り組みを行っている。例えば大きな商店街アーケードが近くにあることを活かし、日常の散歩を活用して交流を増やしている。また交流をきっかけとしてさまざまな店舗の方から絵本の寄付、お菓子のプレゼントなど交流から社会的なつながりに広がりを感じられるという。また、公園などを利用する際も、子育て中の方に積極的に声をかけ、園のイベントに招くなど園を地域の子育て拠点、地域の活性化の拠点を目指しながら日々、交流を意識した活動を行っている。

4			リスクマネジメント		カテゴリー4
サブカテゴリー1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる				サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる				評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				
サブカテゴリー2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている				サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている				評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している				
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				
カテゴリー4の講評					
子どもに関する個人情報については閲覧権限を設け、適切な情報の管理を行っている 園は個人情報保護についてマニュアルを作成し、管理の徹底を図っているが、現在は職員一人ひとりの対応の理解を進めている段階である。情報の発信や子どもの情報のに関しては、セキュリティ対策として職員の立場に応じてアクセス権限を設けたり、保護者のアプリの利用に対してはパスワード設定を行い、情報の管理を行っている。入所する際に記入する個人情報に関わる紙媒体の情報については少ないが、事務所の書庫に保管している。破棄する場合においても溶解、シュレッダーで行うなど徹底した管理が行われている。 園は保護者に対する子育て支援を子育て不安の解消を強く意識している 日々の業務において虐待事案などに対する適切な対応は、必要不可欠であり、敏速な対応が求められる。しかしながら園では生じるリスクへの対応だけでなく、生じる前からその可能性をできる限り最小限にする取り組みに力を入れている。具体的には日々の登園降園や保護者会、相談の場で、保護者の育児不安の芽を早い段階で解消できるよう、保育者は傾聴、助言、共感などを意識している。特に子どもに対する父親と母親の成長に対する違いや初めての集団生活での悩みなどがあるという。そのような把握から、不安解消のための支援が行われている。 運営に支障をきたす可能性がある事象を、今後の具体的な改善に活かしている 日々の運営において、さまざまなリスク対策が必要となる。園は対応においてもっとも重要なのは人的環境である職員だと考えている。もちろん対応策を想定し作成されているマニュアルも重要であるが、万が一の場合は敏速な判断と行動が必要である。そのため、台風や感染症などの対応が生じた際は、必ず今後の対策として全職員で共有を図っている。それにより経験して事象が、改善の具体的な解決策として活かしている。さらに今年度より避難訓練などを行う際は事前計画より、事後の改善と対策に重点を置き、職員会議などに組み込んでいる。					

5 職員と組織の能力向上			カテゴリー5
			サブカテゴリー1(5-1)
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		
●あり ○なし			
	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		
●あり ○なし			
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		
●あり ○なし			
	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		
●あり ○なし			
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		
●あり ○なし			
	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		
●あり ○なし			
	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		
●あり ○なし			
	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		
●あり ○なし			
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		
●あり ○なし			
	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		
●あり ○なし			
	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		
●あり ○なし			
	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		
●あり ○なし			
			サブカテゴリー2(5-2)
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		
●あり ○なし			
	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		
●あり ○なし			
	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		
●あり ○なし			

カテゴリ＝5の講評

園長は求められる保育像を明確に示し、面接を通じて必要なスキルの向上につなげている

園において求められる保育士像を明確にすることは、職員にとって役割を意識し安心して日々の業務にあたることにつながる。園では研修計画を通じてそれぞれの課題に応じた研修を受講し、一人ひとりの保育スキルの向上につなげている。さらに園内での面談は事前に記入したシートを用いて行われている。具体的な内容としては、①現状の役割や業務を確認すること ②次のステップアップに必要な内容となっている。その中で職員自身が自身の未来像について語ったり、何をを目指すか、何が悩みなのかと具体的なポイントを意識させている。

園では年2回の自己評価を行い、明確な役職基準を明確にすることで定着を図っている

当園は職員の定着率が非常に高く、安定した職場環境が整えられている点は高い評価に値する。園長は職場内での休暇の取りやすさや相手を思いやる尊敬の心を意識することにあるという。さらに日々の業務において園が目指している保育方針とのずれをできる限りなくすため、年に2回の振り返り自己評価制度がある。その中でグレード分けされた日々の業務の確認や園として目指す子ども像とがフォーカスされることも職員の定着に大きな影響を与えていることが伺える。また特別に配慮が必要な場合は個別に見守る担当を決め、サポートを続けている。

園長は職員全体の保育スキルの向上のため、実践的な園内研修を行っている

保育の質を向上させる取り組みとして、研修を活用する園は多い。しかしながら受講後の学びの定着まで意識する園は少ない。園ではさまざまな研修の機会を通じて、個人の学びを園内での学びへ、また園内での経験を再度個人の学びへと転換する取り組みを行っている。具体的には研修で受けた内容を、園内研修(報告会)で講師役として務め、学びのアウトプットが行われている。それにより「教える」ことでの学びの定着化が図られ、個人だけでなく職員全体での学びの転換、さらに個人スキルの定着化のシステムは注目すべき取り組みだといえる。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 園は地域社会の中で必要とされる役割を持つ施設であり続けたいと願っている。もちろん在園児と保護者への支援を丁寧に行うことに加え、園を軸に考え園として役割を意識している。例えば、日常の活動の中で散歩に出かける際にさまざまな方へ声をかけ、子育てイベントへの招待を行っている。実際に園に来て園児との触れ合いを通じて、その年齢や発達に応じた遊具や経験、園としての考えを伝える機会となっている。また、長期休みには卒園した児童だけでなく小学生、中学生に声をかけ、年齢層の広い交流を図っている。コロナ禍で衰退した地域との関わりは、園にとっても財産であることを再確認し、過去に交流があった施設や店舗に再度、連携を取りながら地域の輪を広げる取り組みを行っている。			
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 保育所体験、地域交流、イベント交流などさまざまな取り組みを行った結果、園はその活動において満足せず、新たな取り組みを始めている。それまで興味がある方の訪問が多くあったが、もっと気軽に来てもらうようSNSやホームページでの周知を始めた。また、園の入り口に子育て相談会の開催を掲示し、より多くの方への情報の発信が行われている。さらに、これまで施設間の連携として不足していた小学校への見学も、園から積極的にお願いをしている。ここでも、保護者の参加も促していることは、園が考える継続的な支援も含めた考え方が色濃く見える姿勢だともいえる。このような姿勢は、育児不安や就学不安を抱きやすい今の時代にとって、よりアピールすべき特徴ともいえる。			

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

園は、重要な課題、役割の1つとして保護者支援を考えている。事業計画においても、本園を利用する子どもの保護者への支援、この地域の子育て支援事業として掲げている。その中では家庭環境や仕事の状況を把握し、園として保護者に寄り添った支援を行うこと、日々のコミュニケーションを軸に保護者の声に耳を傾け、ともに子育て(子どもの成長)を喜び合うことを具体的な取り組みとして明確にしている。日々の取り組みの中で、子ども一人ひとりの「らしさの尊重」を第一として、職員研修だけでなく、保護者へも研修の参加を促している。さらに注目すべきポイントは、職員と保護者が「作戦会議」と称し、子どもを真ん中として捉え方、支え方、理解の仕方を伝え合い、子どもの「らしさ」の探求と最善の支援のあり方を考え続けていることにある。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園が考える「らしさの追求と保育者・保護者の相互支援」は、園が掲げる「子育てに関する保護者や人の成長」を基とする人を大切にする社会の礎として取り組まれている。また、保護者に対する姿勢として、子育てに関わる保護者や家族の育ち合いに寄り添い支援する存在であり続けたいとの意思表示が、園としての保護者支援と子ども支援の指標として確立されたものとなっている。そのような姿勢と具体的な取り組みの成果は、評価で行った保護者アンケートにおいても数字として表れている。回答率は100%、利用している園の総合評価(大変満足72%、満足28%、合計100%)も評価すべきポイントである。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリ6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
サブカテゴリ1の講評		
外国籍入園希望者に対して英語媒体で園情報を発信している 園では、入園希望者には外国籍の保護者がいることを想定し、英語媒体で園の情報が届けられる書類を用意している。SNSなど電子媒体を利用した保育内容や地域支援の情報、園の基本情報は外国籍の保護者にとって多言語に翻訳できるため園選びの参考になると考えられる。特に、保育の内容を伝える情報は、園の保育文化を理解してもらうために貴重な情報である。地域の特徴を踏まえ多言語での書類整備、多言語で対応できる職員を増やすなどのさらなる工夫に期待する。 保育の様子をHP、SNS等を利用して園の魅力を伝えている 園ではホームページ、SNSを使用し園の魅力を伝えるようにしている。ソーシャルネットワークで発信される園の情報や保育内容は、入園希望者だけではなく地域の子育て家庭や地域の人々に広く届けることができる。また、職員が情報を作成することで、園で大切にしていることを意識するようになると考えられる。季節の行事などはタイムリーに更新する、更新回数を増やすなど園で大切にしている保育内容を地域の子育て家庭や社会に発信していけることを期待する。 園見学、保育園体験、離乳食体験などを通じた地域子育て支援を行っている 園見学希望者の都合の良い日時を聞き、園見学の日程を決めている。保護者が得られる園の情報は見学会だけではなく、土曜日に行っている保育園体験会、離乳食会などを通して知ることができる。地域の保護者が、気軽に保育園に足を運べる取り組みといえる。保護者は子育て情報を得たり、子育てコミュニティに参加することで、保育園で行っている保育のねらいを知り、子育てに活かすことができる。孤立しがちな育児を応援する優良な取り組みであるといえる。		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	
サブカテゴリー2の講評		
入園内定保護者に対して重要事項の内容を収録した動画を配信している 重要事項の説明は入園面談の際に個別に行っている。園では文章だけでは十分な理解が得られないと考え、重要な注意事項を動画にして配信している。保護者は、重要な部分や注意点を理解した上で承諾をしている。理解不足は入園後の保護者とのトラブルの発生につながることもあり、それを防ぐためにもこうした取り組みは大切である。保護者と園の双方が共通理解をもって保育を開始することは、保護者が園の理解者、応援者となってもらうために重要な取り組みであると評価する。		
慣らし保育の期間に丁寧に子どもの様子が伝わるようにしている 子どもの様子を第一に考えて、短い時間からの慣らし保育を行っている。保護者の就労状況に合わせて短期間になる場合もあるが、慣らし保育の重要性を保護者に伝えた上で、子どもの無理のない環境を設定し、保育者同士が連携して行っている。保育時間内の子どもの様子は毎日保護者に丁寧に伝え、家庭生活での配慮すべき点なども伝えている。低年齢で入園してくる子どもにとって安心して新しい生活への入り口は、慣らし保育である。保育者は最善の環境設定のために個別の配慮を行っている。		
就学に備えて5歳児は他園との交流を積極的に行っている 近隣に系列園があり、日常的に気軽に交流を行っている。特に就学前の5歳児は交流会を行い、就学に向けて子ども自身が意識できるようにしている。就学先の小学校は最終的に4校程度に分かれてしまうが、小学校を訪問したり、散歩の際に小学校の前を通ったりするなど、就学に対する意識を高めるように計画的に行っている。就学という環境の変化や子ども自身のストレスをできるだけ軽減できるよう工夫された保育を行っている。子どもが地域に出て活動することは、保育園を中心にした新たなコミュニティづくりに寄与する取り組みであるといえる。		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	
サブカテゴリー3の講評		
職員会議、クラス会議を定期的に行い職員間で共有を行っている 園では職員同士が情報共有をし、職員同士の同僚性の向上に努めている。職員会議は月に2回行い各クラスの保育内容や子どもや家庭の状況を共有している。また、クラスの保育計画を策定するクラス会議も定期的に行っている。会議の前に次第が出されていないため、会議の時間を通して共有しているが、報告事項は事前に書き込んでおくなど工夫をすることで、会議時間が職員同士のディスカッションの機会になる。職員同士の共有度を高め子どもを中心に語り合える会議への仕組みづくりに期待する。		
法人独自の絵本の活用について優良、有効な使用方法について話し合っている 法人が大切にしている保育のねらいとして、法人独自の絵本を使用している。年齢、月毎に絵本があり保育者は絵本に親しむ環境の入り口として活用している。活用の方法は、定期的に園長を中心に取り組みを可視化した事例を提案している。保育者は、絵本のテーマに沿った保育計画を策定するなど法人絵本を基に保育を展開している。うまく取り組みが進めなかった場合も振り返りを行い、次の計画につなげるようにしている。オリジナル絵本を生きる教材として保育に取り入れている保育活動であるといえる。		
子どもの情報は担任保育士が収集し、電子媒体を使い職員共有を行っている 園ではICTツールを使用し、保育計画、日々の記録を行っている。担任保育者だけではなく管理職、他の保育者がリアルタイムに閲覧できるため、情報共有や保育内容を園内で共有することができる。当日の保育の内容や保育者の気づきが共有できているが、共有内容の中に含まれる子どもの育ちや興味関心、配慮事項を検討する機会が少ない。管理職を中心に子どもの育ちへの気づきが保育計画へ展開されるよう提案し、保育者の専門性の向上につなげることを期待する。		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	
サブカテゴリー5の講評		
園は子どもの人権を尊重した保育を掲げ、日々の生活の中で浸透させようとしている 園は、日常の保育における子どもの権利について非常に高い意識を持っている。園内で日常の関わりから子どもの思いを受け入れることを行っている。また日常の生活の中で子どもの主体性を尊重することを子どもの人権として、遊びについての選択性(どの遊具で遊ぶか、子ども自身が選べるような配置)、生活の中では食べる順番(フルーツ、おかず、汁物等)なども、子どもの選択を尊重している。園が掲げる「らしさ」の尊重は、日々の関わりの中で育まれるものであることが意識され、生活の中で自然と関わりが保障されている。 子ども自身の羞恥心を意識できるよう、日々の保育の中でさまざまな活動を入れている 園の生活を通じて、さまざまな心情を育んでいくことが保育の目的の1つである。その1つに羞恥心がある。園では子どもの心情や年齢に応じて着替える場所を変えたり、身体測定の場所を男女で分けている。また実際の配慮だけでなく、子どもたちの意識化を図るため、絵本を通じた取り組みが行われている。さらに乳児の沐浴やおむつ替えも、廊下や外部から見えないように徹底されている。このような心情は、「～才开始める」という考えではなく、小さい時から繰り返し行うことから育まれるという考えで日々の活動に自然な形で行われている。 園は子ども家庭支援センター等と連携しながら、虐待等への対策を行っている。 子どもたちの健全な育成に向けて園は家庭ともさまざまな取り組みや連携を図っている一方で虐待や不適切な育児が生じるケースを想定している。虐待など相談、通報、保育中に発見した場合はまず子ども家庭支援センター、東京都児童相談所などと連携している。入園の際には重要事項説明書を用いて、保護者の同意の下で提供する旨の説明を行っている。しかしながら、園長は園として保護者の実情を理解し支えることに役割があると考えており、どのような声掛けやアプローチをすると事態が好転するのかを想定しながら職員同士で話し合いを持ち対応している。		

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5 / 5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改定の時期や見直しの基準が定められている
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しに当たり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている
サブカテゴリー6の講評	
園は保育方針の具現化のため独自のツールを活用しながら保育の質を高めている 園における子どもへの関わりは、それぞれの経験や主観的な思い、享受的な姿勢から生み出されるものではなく、まず理念並びに方針があり、そこから引き出されていくものである。園では、遊びの中から3つの力、7つの心を目指としている。日々の会議や業務連絡の中で大切な考えなどに触れながら職員同士の理解のずれを修正する一方で、事例に基づいて構成されたICTツールを活用している。具体的に保育の時系列ごと、場面ごとの声掛けなど明確に区分された事例含め、さまざまなケースが例示されている。 会議、ミーティング、個人学習などさまざまな場面を通じて保育の標準化を図っている 園が考える質の高い保育の実現のためには、明確な指標などが必要である。保育所では保育所保育指針が該当し、日常の保育との整合性が図ることが非常に大きな意味を持つ。また、園ではさまざまな会議やミーティングを通じて、園が目指す個性の尊重「子どもらしさ」を常に意識するような問いかけが行われている。また、職員が業務や子どもへの関わりで迷いなどが生じた際も、タブレット端末や個人携帯で確認や学習ができるツールを導入していることで、常に「園が目指す理想的な形とは?」「保育者の望ましい支援は?」が明確に道標となっている。 日々の業務マニュアルなどは現場で修正が図られ、常に現場を尊重して改定されている 保育におけるさまざまな業務をマニュアル化、スケジュール化し、効率的に進めることは全体的に保育の質を高める上で必要な要素である。そのためマニュアルに従うことがルールとされ対応などが画一化していく傾向もある。しかしながら、園においてのマニュアルは運営委員会などで職員の意見を集約し、十分な話し合いの上で子どものためという考えの下で、改善が繰り返されている。さらに園単位での改善だけでなく、運営会社への提案も可能であり、園長を中心として「プロジェクトチーム」が立ち上げられ、近年でさまざまなチームが改善案を立案している。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の大人やものに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している
評価項目1の講評	
職員は子ども一人ひとりの発達に沿って丁寧な言葉かけを行っている 保育士は子どもの様子を丁寧に観察し、子どもの表現や要望に応答的に丁寧に関わるようにしている。乳児の発達や興味関心を汲み取り、環境の設定や遊びを提案している。言葉掛けに否定的な内容はなく、子どもの意志を尊重した言葉を選んで行っている。しかし、遊びの環境は子どもが十分に自己発揮できるだけの充実に至っていない。例えば、ままごと遊びは生活体験をもとにした展開ができるような多様な道具や家具を用意する、微細な運動を促す玩具、さまざまな感触を楽しむ玩具などを子どもの手に届く場所に設置するなど、工夫が望まれる。 トラブルの際は自分の意見を言語化できるよう、話し合いの機会を設けている 一人ひとりのパーソナルスペースが十分に確保されているため、トラブルになる機会はあまり多くない。子ども集団の中では発達の近接領域で興味や関心が重なり、トラブルが発生することもある。保育者は、子ども双方の意見や思いを聞くようにしている。また、子ども同士が相手に思いを伝えたり、トラブルが起きた時の状況に気づいたりできるようにしている。園では子どもが自分の気持ちや行動に気づくことで、相手の気持ちに気づいたり寄り添うようになってほしいと願っている。 多様な子どもの育ちや違いに気が付ける様に具体的な手立て、環境が望まれる 子ども一人ひとりの違い、年齢発達の違い、性差、考え方の違い、文化的や人種による違いを知ることは自分自身を知ることであり、多様な考え方を柔軟に受け入れる社会づくりに必要な教育である。保育者は意識的にこのような違いについて子どもに伝えていく必要がある。子どもが主体的に生きていくために、多様性の理解や受け入れは大切である。保育者が多様性を意識できる保育環境をつくり、異年齢での活動の意義、配慮児を含めたすべての子どもたちの幸福の実現を目指すことが望まれる。	

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排泄などの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	
評価項目2の講評		
電子連絡帳を利用し家庭での様子や保護者からの要望に応じている 園では、家庭との連絡に電子連絡帳を利用している。電子媒体の利点であるリアルタイムの職員同士に情報共有を活かし、職員同士の齟齬ができるだけ発生しないようにしている。保育者は家庭での状態を把握した上で、一人ひとりの生活リズムを崩さないようにして保育を行っている。家庭からの要望も当日中に担任同士で検討し、即日回答するようにしている。保護者は、保育者が子どもに関心を持ち丁寧に対応してくれていることで、園を信頼し安心して預けることができる取り組みといえる。 個々の子どもの生活リズムに合わせて休息の時間とくつろぎの場所を用意している 乳児の保育室は、休息する場所を常設している。乳児の生活リズムは一人ひとり違い、体調によっても休息時間は違うと捉えている。集団保育の中で、保育者都合で生活時間を決めず、一人ひとりの子どもを観察し、発達に沿った生活環境を整えている。生活リズムが一定になってきた2歳以上の子どもの様子や子ども同士の確保、一人になれる場所の確保がされている。本園が目指す、子どもの主体性を大切に環境の設定が実現できている取り組みといえる。 保護者とのコミュニケーションの時間が日々十分に取れるよう工夫が望まれる 日々の子どもの様子は、電子連絡帳や掲示物などにより保護者に伝えるようにしている。けががあった場合や体調の変化はお迎えの際に直接伝える仕組みがある。しかし、廊下や玄関先が狭いため、子どもの育ちのエピソードをすべての保護者に伝えるには限界がある。保護者はその日の子ども同士の関わり、些細なことでも変化を、直接保育者から聞きたいと思っている。当日の様子を写真媒体などを使って日々配信する、保護者の感想を聞くなど、双方向性のあるコミュニケーションのさらなる工夫を期待する。		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
●あり ○なし	5. データ・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れられている	
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがそまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
評価項目3の講評		
子どもの興味関心が促され、好奇心が満たされるよう多様な玩具の用意が望まれる 遊びが促される玩具や環境が用意されている。子どもたちは設置された玩具を使用して工夫して遊んでいる。その玩具を使って子どもが発想した新たな遊びや気づきが展開されるよう、廃材やハサミ、のり、セロハンテープ、画材など変化を生み出す教材が常設されるよう望まれる。保育者が想定し、計画した遊びから独自の発想や生活体験から生み出される創造性を引き出すための環境構成が必要である。新たな子どもの発見が保育者の専門性の向上、保育の質の向上につながることを望まれる。 多様な知識の会得や探求に結び付くよう、発達に興味に合わせた絵本の設置を期待する 法人が推奨するオリジナル絵本は、保育の中で活用されている。絵本は作者の意図を超えて、読み手(子ども)の感性や感覚で変化していく。日々手にする絵本は乳児にとっては玩具の一部、保育者とのコミュニケーションの手立て、保育者にとっては子どもの認知や感性を知る手立てともなる。子どもの興味関心に沿って、多様な絵本を手にとり、発達に合わせた選択しやすい絵本棚(表紙が見えるもの)などが乳児保育室の環境として大切だと考える。絵本を大切に当園の理念に沿った環境設定が望まれる。 公園や商店街などの園外活動を通して地域社会との交流を積極的に行っている 園の立地は近隣に商店街があり、家庭での生活体験も商店街と密接な関係がある。園では、この商店街を保育の環境として捉えており、屋外活動の場所として活用している。食育にも関わる魚屋、肉屋、八百屋などの小売りで働く地域の人たちとの関係を大切にしている。生活から来る興味関心を深めるために貴重な資源を有効に活用しているといえる。また、近隣にはたくさんの公園があり、屋外活動を日課にしている。自然物や気候の変化が子どもたちの身体感覚の発達を促すきっかけになる、優良な活動であるといえる。		

4 評価項目4		日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目				
	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している				
●あり ○なし					
	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している				
●あり ○なし					
	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている				
●あり ○なし					
評価項目4の講評					
日ごろの生活の延長として捉えた生活発表会を行っている 園では、行事を子どもの生活の延長線上にあると捉え、日々の活動を見てもらう生活発表会を行っている。毎日の日課で行っている名前呼び、手遊びや歌、体操などを行い、成果としての発表ではなく、保護者に保育の一場面を見てもらう機会だと考えている。子どもは、保護者に見てもらうことで非日常を感覚的に感じることができる。子どもの成長を保護者に伝えていくことで、保護者と一緒に喜び合える関係性が構築されるのも、行事の大切なねらいである。そのねらいを言語化して保護者に伝えるような仕組みが期待される。 行事を行う際は子どもたち自身が主体となって作り上げるプロセスを大切にしている 行事に取り組むきっかけは保育者がつくっているが、活動が始まると子どもたちは生活体験を基に意見を出し合い役割を決めていく。話し合いをしながら劇の配役や立ち位置、衣装や小道具の制作を楽しみながら行っている。保育者は、子どもが主体的に活動に取り組み発表へとつなげていけるように計画している。ゴールのあるプロジェクト活動であるといえるが、取り組みの中で発生する変化や変貌を保育者が柔軟に捉え、そのプロセスを記録に取り、子ども理解につなげられるようになることを期待したい。 運動会では保護者同士の交流のきっかけになるよう保護者競技を行っている 運動会は、子どもの個々の成長や、協力する姿を見てもらえるようにしている。園では保護者が一同に会し、広い場所で行う運動会を保護者交流の場所、きっかけになるよう工夫している。クラスごとに保護者競技を行い、身体を使った楽しい体験を味わってもらおうとしている。保育園で仲良くしている友達同士だが、保護者同志の関係は希薄である場合がある。運動会は、子ども同士の関係や関りを目の前にしながら、楽しく解放された気持ちで交流できる保護者支援のひとつであるといえる。					
5 評価項目5		保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目				
	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている				
●あり ○なし					
	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている				
●あり ○なし					
評価項目5の講評					
早朝保育、延長保育の時間を異年齢で過ごす貴重な時間と捉えている 異年齢で過ごす時間であるため、発達に合った多様な玩具を用意している。ゆったりとくつろいで過ごせるように子ども一人ひとりのパーソナルスペースを確保しており、より家庭に近い環境の設定を心掛けている。また、ふだん保育室にはない玩具も用意されているため、モノとの新たな関わりや、異年齢で遊ぶことで新しい遊びが生まれる場でもある。延長保育の時間、空間を日ごろ経験できないもう一つの経験の場として捉え、人的環境も含めた新しい発想の機会として捉えられるように期待したい。 保育者同士が丁寧に日中の様子を引継ぎを行い、保護者に伝えている 延長保育では利用者が少なく、少人数の中で保育が行われている。園では、子どもが寂しさを感じないよう、一人遊びでも楽しめる環境を整えている。一人ひとりの子どもの好きな玩具を用意し、保育者が寄り添いながら過ごす時間を確保している。リラックスゾーンでのんびりと過ごすことも大切にされている。保育者は子どもが遊ぶ最中の発言を注意深く聞き、会話を進めながらその発想やアイデアを通常の保育計画や環境設定のヒントとして活用している。このように、子どもたちの声を保育に反映させることで、より充実した保育環境を目指している。					

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
●あり ○なし		
	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
●あり ○なし		
	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
●あり ○なし		
	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
●あり ○なし		
	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	
●あり ○なし		
評価項目6の講評		
食物アレルギー児の誤食が起きないように食べる場所、食器の色を変えている 園では自園の給食室で栄養士、調理師が自園式の手作り給食を提供している。食物アレルギーの園児の食事の提供は、誤食により生命の危機が起こる可能性が高く、慎重に対応する事案だと考えている。調理の手順、提供までの手順はシステム化されヒューマンエラー発生の可能性を極力下げている。喫食場所は専用の机を用意する、食器の色を変えるなど視覚的にもミスが起きにくい仕組みを作っている。食物アレルギー児の食の楽しさを軽減させないように、アレルギー物質が入らない食事の時には、他児と一緒にテーブルで食卓を囲むようにしている。 商店街の専門店との交流を通して子どもが食材に興味を持てるようにしている 園の近隣にある商店街は、子どもたちの生活場所でもある。園の給食食材は極力商店街の専門店から仕入れるようにしている。魚屋、八百屋、肉屋など食材を販売している専門店の人々との交流は人との関係性を介した「食べる」への興味へのきっかけとなっている。この環境は素材の味や調理方法への関心を持つことにつながっている。また、夏野菜の栽培を通して、野菜ができる過程を観察するなどの取り組みを行っている。本物を知ることが身近にできる地域コミュニティは、豊かな食育環境であるといえる。 配膳や食具の選択など子どもが日々の食事に主体的に関われる環境設定が望まれる 4歳児、5歳児も低年齢の子どもと同じように規定量が配膳された給食が提供されている。配膳は大人が行っており、子どもは配膳が終わるまで席で座って待っている。温かい食事を食べたい量、食べたい時間に好きな友達と一緒に食べることは、子どもが主体的に食事に関わる要素であるとする。配膳を子どもの当番制にする等積極的に給食に関われるような仕組み作りが望まれる。また、献立によっては子どもが食具を選択する等、食の文化を意識した日々の食育活動にも期待する。		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
●あり ○なし		
	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
●あり ○なし		
	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
●あり ○なし		
評価項目7の講評		
看護師は日々の指導に加え、保育者と連携した手洗い指導、歯磨き指導を行っている 子どもの健康管理は看護師が中心に管理されている。怪我やヒヤリハットの共有、感染症予防、対策等も看護師の管理のもと行っている。感染症予防対策として重要な手洗いは、日々の保育場面で直接指導を行っている。幼児の子どもたちには別途手洗い教室、歯磨き教室、プライベートゾーンの指導を実施している。子ども自身が自分の身体を知り、健康、安全に対しての意識を持ち、正しい洗い方、磨き方、プライベートゾーンの大切さを知るようにしている。子どもが健康に対する知識を持って実践できるようになる取り組みとして評価する。 怪我や感染症が発生した場合、園内で判断できないことは園医に相談している 園で感染症が発生した場合は、保護者に周知している。集団生活の中で感染症が発生した場合、拡大の可能性が大きくなるため、看護師は職員に向けて感染症拡大予防を行っている。けがが発生した場合は応急処置と共に症状によっては受診を判断することもある。しかし、感染症予防を行っても発生が収まらない場合、受診の判断が難しい場合などは、園医に相談している。地域の感染症状況、医療的専門知識を持った園医の情報や判断は、園児の健康、安全を守るために重要な情報源であるといえる。 毎月保健だよりを発行して季節性の病気の知識や感染症の情報を伝えている 看護師は、保健だよりを通して保護者に健康に関する情報を伝えるようにしている。特に季節性の感染症や園内で感染症が発生した場合は、症状を詳しく伝えている。低年齢の園児の保護者にとっては、経験のない病気等も多く感染症との違いが判らない場合もある。また、経験の浅い職員は、感染症の症状を見逃す可能性もある。保護者、職員に対しての保健指導、可視化された掲示(写真、イラスト)を行うことも効果的であるとする。保健計画に職員、保護者に対する保健指導を追加することが望まれる。		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
●あり ○なし		
	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
●あり ○なし		
	2. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
●あり ○なし		
	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
●あり ○なし		
	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
●あり ○なし		
評価項目8の講評		
クラスごとに保護者参加のイベントを行い交流の機会を作っている 園では、保護者の就労の都合に合わせて、保育参観ができるように長期間保育参観日を設定し、多くの保護者の参観を促している。また、クラス懇談会を年に1回設け、保護者同士の交流の場となるようイベントを行っている。園は、交流イベントは年度初旬に行い、保護者同士が顔見知りになり、交流が始まることをねらっている。しかし、園主導の活動であるため、初めて出会った保護者同志の交流が継続されるような仕掛け作りも必要である。クラスイベントをきっかけに交流が継続するような企画の設定を期待する。 個人面談は対面、オンラインのどちらかを選択することができる 保護者個人面談は年に2回行っている。園では、保護者はそれぞれの都合に合わせて、対面又はオンラインのどちらでも面談を受けることができるようにしている。保護者の面談の出席を促すために面談方法を選択できるこの仕組みは、保護者にとっても有効である。保育者と保護者が子どもの育ちを共有したり、家庭での様子、園での様子を知り子ども理解を深める良い機会になっている。また、保護者と保育者の信頼関係の構築の一助になる取り組みであると評価する。 子どもを通して保護者同士が主体的に園の運営を理解する機会が望まれる 保護者が園の運営方針、保育方針への理解を高め園のファンになってもらえるような取り組みが必要である。そのためには保護者同士が協力して園の行事を手伝う、園のために新たな取り組みを提案するなど、主体的に園運営に関わってくれる保護者の増加が望まれる。そのきっかけづくりは園が用意する必要がある。ドキュメンテーションを通して保育を語る会やワークショップなどを開催するなど、気軽に園に足を運んでもらえるような取り組みの計画に期待する。		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
●あり ○なし		
	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
●あり ○なし		
評価項目9の講評		
園は園外活動を通じて地域との接点を持ちながら、交流の機会を広げている 園は園外活動を地域との接点の機会だと捉えている。園内での遊びや関わりは子どもたちや保育者、また保護者などとの関わりに限られるため、より広い社会的な交流の機会が必要だと考えている。そこで散歩中にすれ違う地域の人や興味を持って話しかけてくれる方とも積極的に関わりを持つようにしている。その結果、ハロウィンなどのイベントの際にも交流につながったり、店舗からの絵本のプレゼントなどが行われた。園から地域に出向くことにより、地域(商店街、店舗等)との接点が生まれ、そこから交流につながっている。 園は地域で生まれた些細な関係を、できる限り日常の活動の中に取り入れようとしている 地域の中で園の役割は、利用者に対する保育サービスだけではない。特に近隣の方々との関わりは日常の活動の中から生まれることがある。園は自治会の回覧板のやり取りから、近所の方との接点が生まれたことをきっかけとして、園の活動の1つとして取り入れた。月に一度ではあるが、近所にお住まいの方が絵本の読み聞かせに訪れている。このような取り組みは、園の事業計画にある「地域の高齢者等との関わりを通して、つながりを持った社会を作る」という考えになる。行事などに子育て中の方を招待し、保育体験会などが地域で交流できる場となっている。 系列園の強みを生かし、同年齢同士の交流や就学を見据えた交流を行っている 園は近隣で運営している系列園がある強みを生かし、同年齢同士の交流の機会をより多く持っている。園外活動などを一緒に企画し、公共交通機関などを利用しながら、園内では経験ができないような活動を取り入れている(電車でお出かけやプラネタリウム見学など)。また、日常の散歩活動は商店街や学校の通学路を利用することから、子どもたちの社会性を広げたり、就学後の関わりにつながることを目的としている。さらに年長児の就学後の人的支援を目的として、同じ小学校校区の年長同士の交流の機会を持っている。		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	園は地域の中で必要とされる子育て拠点を目指し、日々交流を広げている	
内容①	園はコロナ禍で減少した地域との交流や接点を再度、構築するためにさまざまなアクションを起こしている。事業計画において3)地域の子育て支援事業、と位置づけ、開発が進み若い世帯が増えた中で1つの理想を掲げ、取り組んでいる。地域の方々に妊娠前から就学前までの子どもの健やかな成長、発達を支援し、家族の心身の健康をサポートするというものである。公園での出会い、施設での出会い、散歩中の何気ない出会いの中に価値を見出し、地域の子育て環境を豊かにしながら、地域に必要とされる施設への第一歩として着実に実を結んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル②	小学生のボランティア、離乳食体験、保育体験会など地域へ開かれた活動を行っている	
内容②	園では卒園児のボランティアの受け入れに加え、地域の小学生、中学生を対象にボランティアを受け入れている。地域の子育て家庭向けの離乳食体験会、土曜日に行う保育園体験など地域に開かれた活動を積極的に行っている。このようなイベントの告知はホームページ、SNS、園入り口付近の外部向け掲示などを用いて、地域の人々に届く方法で広報を行っている。広報の方法を工夫して行うことで多くの人々に情報を提供しようと意識している。地域資源として保育園が認知されることは、保育園の価値を高める活動であるといえよう。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	職員の集中した業務時間を確保し、目指す保育実現へ考える時間確保を実現している	
内容③	園では保育者の事務作業などの時間を確保するために「ノンコンタクトタイム」を導入している。保育者はこの「ノンコンタクトタイム」を有効に利用して保育計画や保育記録の記入などを行っているが、保育を考えるための精神的な余裕を与えるという意味もある。また、ノンコンタクトタイムに各種会議を開催したり、有効にこの時間を園として利用することも出来ている。定期的な職員会議では連絡事項に加え、保育計画やねらい、実施後の振り返り、個別の園児の発達状況などを伝え、職員同士が情報を共有する機会を確保することも出来ている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園における明確な役職定義、職務分担が一人ひとりの働きやすさとなり、職員の意識の向上と定着に結びついている
	内容	園はビジョン(方針)を明確にすることで、職員一人ひとりの自己効力感を高め、安心して保育に取り組む環境を整えている。園の方針をさらに具現化するために、法人が定めた役職の定義(経験や専門性に基づくグレード)は、職員一人ひとりが自らの業務を理解しやすくなるだけでなく、ライフスタイルに合わせたキャリアアップの指標ともなっている。さらに園長と職員との面談では保育への意識の向上だけでなく、保育者が何を求められ、今後の役割をどう意識すべきかという見通しを持ち、職員各自が働き続けやすい職場環境への要因にもなっている。
2	タイトル	園は職員への子育て支援研修を通じて職員の支援スキルを高め、子どもの発達保障だけでなく保護者の安心感の醸成につなげている
	内容	子ども一人ひとりの健やかな成長、発達を保障するには園と保護者との協力関係は不可欠である。園は保護者との協力関係に加え、双方が子育て支援における共通認識を持つことこそ、豊かな子どもの育ちと社会性の実現につながると考えている。園は、新入職員には子育ての専門家としての所定の研修受講から専門家育成を目指し、保護者に対しても子育て研修の受講を進めている。この目的は、一人の子どもを園と家庭の両面から多面的に支え、必要な最適解を見つけるため有用である。この取り組みは決して当たり前ではなく、先進的で注目すべきものである。
3	タイトル	乳児保育では十分な人的環境が整えられているため、各職員が子どもに丁寧に関わり、一人ひとりの発達を保障することができている
	内容	乳児保育は経験が豊かな職員による人的環境が確保されており、応答的な関わりの中で愛着関係を形成している。子ども達が安心して遊んだり生活することができ、自発的に物に関われる環境は、乳児期に必要な自己表現が環境として保証されている。乳児は安心が保障された保育室から4・5歳児の部屋の活動を覗き込み、興味を示したり観察することができる空間的な環境は、憧れから豊かな発達を促すものとなっている。大人の見守りや、モノを介して発生する子ども同士の関わりは、次の発達へのステップにつながる豊かな環境を構成している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園長による園理念の構築から中長期計画を見直し、自立等の大切な言葉を定義化することで職員全体の保育への方向性をそろえてほしい
	内容	園としての園長による理念と中長期計画や事業計画見直しから、これを各職員に伝え、本園としての向かう方向性は明らかになり、次年度以降の全職員による目指す保育実現への歩みが始まる。しかし、もう一つ忘れてはならない点は、それと同時に職員一人ひとりが保育とは何かを考え、考えながら保育を楽しむことを実現していくことである。このためには、職員各自が保育を着実に言語化し保育を説明できるように意識することが求められる。これができた時、保護者の信頼度も高まり本園は真の意味での目指す保育の実現が達成されることになるであろう。
2	タイトル	子どもの人権を尊重した保育の実現のため独自のICTツールを活用し、さらに子どもの「らしさ」を引き出す同僚性の構築に期待したい
	内容	園は豊かな社会の実現に向け、何よりも保育の質を高め、一人ひとりの専門性の向上につながるよう、さまざまな学習の機会を保障している。園は個人として保育の振り返りや望ましい保育方法の意識化のため、独自のICTツールを活用している。これらは保育のプロセスを見える化したものとして、非常に有効だといえるが、保育の現場は画一的なマニュアル対応より職員が共に考え・行動する、ガイドラインの要素が求められる。そのような側面を深く理解し、活用することで子どもから感じ、考え、より良い保育の応答につながることを期待する。
3	タイトル	子どもが興味を持った時にすぐに調べられる、物語の楽しさを味わう等のねらいをもって発達に合わせた絵本の環境の充実が望まれる
	内容	絵本を通して豊かな子どもの育ちを保障するために、絵本は充分な数と種類、状態の良い絵本の設置が必要である。絵本は語彙の獲得、認知、創造性、感受性、探求心、研究心を刺激し、自ら手に取ることで自分なりの世界へ入ることができる。保育者の絵本に対する興味や知識は、子どもの絵本環境に大きな影響を与える。保育者は多様な絵本から得られる可能性を専門家的視点で捉えることを期待する。保育環境として発達や興味関心に沿った絵本を、子どもの手の届く場所、子どもが片付けられる場所に用意するなどの工夫が望まれる。